

会議名称：平成26年度2月期古賀市社会教育委員会議

日時：平成27年2月17日（火）19時～21時15分

場所：リーパスプラザ研修棟103号室

主な議題：第2回生涯学習笑顔のつどいについて

傍聴者数：傍聴者なし

出席者：木下委員、小山委員、力丸委員、加藤委員、橋本委員、平島委員、船越委員、松本委員、水上委員

（以上委員9名）

山田課長、本田係長、野田、篠塚

欠席者：永井委員

事務局：教育委員会生涯学習推進課社会教育振興係

配布資料：①レジュメ

②第2回生涯学習笑顔のつどい協議資料

③生涯学習センター及び周辺施設整備事業に伴う工事期間・休館（予定）について

会議内容：以下のとおり

木下議長：

2月期社会教育委員の会議を始める。報告事項から。事務局お願いします。

事務局：

まずは平成26年度古賀市社会教育委員の会議活動報告書について。例年この会議では提言書を作成しているが、本年度は教育委員会からの諮問に対する答申作成に会議の時間を費やしたため、提言は行っていない。そこで、本年度は活動報告書を作成しようということで皆さんのご了解はいただいていたと思う。内容は諮問に対する答申「生涯学習社会における社会教育関係団体のあり方について」、6月に開催した「第1回古賀市生涯学習笑顔のつどい」について、そして会議の活動実績である。また、冒頭には木下議長に文章をいただいている。

木下議長：

活動報告書について、ご意見はないか。ないようなので、このかたちで報告書を作成していただきたい。

事務局：

次に、生涯学習センター及び周辺施設整備事業に伴う工事期間・休館（予定）について。生涯学習センター建築工事については、このたびようやく請負業者が決定し、契約が行われた。業者名は前田建設工業株式会社九州支店、工期は平成27年2月20日から29年1月29日の予定である。工事期間中の入館経路、仮囲い設置計画などについては、図面を使って説明する。

（プロジェクターで図面を投影し、説明する。）

また、工事期間中は施設によっては使用を制限するものもある。それぞれの休館期間は資料のとおりである。

木下議長：

では協議事項に入る。第2回生涯学習笑顔のつどいについて。ここからは加藤委員に進行していただく。

加藤委員：

今日は、アトラクションと実践報告の出演団体、そしてつどいの全体構成について決めたい。まず出演団体については、1月の会議で皆さんに候補を出していただいた。その中からでもいいし、あるいは他にもこういう団体がいるという意見があれば出してほしい。

事務局：

1月の会議で皆さんから出していただいた団体、そしてそこに事務局の意見としていくつか団体を挙げている。アトラクションについては、「D o w b l e D」を3人が候補として挙げていたため、出演してもらえないか連絡したところ、出演できるだろうというお返事をいただいている。また、実践報告については、古賀西小校区コミュニティをやはり3人の方が候補として挙げている。子育て支援関係の活動はないのかといったご意見をいただいたので調べたところ、花見東1区福祉会で子育て世代を対象としたサロン活動を行っているという情報を得たので、今回候補として追加で挙げている。水上委員に補足説明をお願いします。

水上委員：

花見東1区の福祉会活動について。社協では福祉会活動として、高齢者を対象とした活動だけでなく、子育て世代を対象とした活動にも力を入れようとしているところである。花見東1区は市内では非常に子どもの数が多い地域であるが、未就園児の親たちが集まれる場がないと言われていた。そこで、地域の中で子育てできる環境をつくろうということで、公民館を集いの場として読み聞かせや自由遊びをするサロンを立ち上げ、活動を行っている。

加藤委員：

アトラクションについてはあと1団体、実践報告については3団体を決めていきたい。

(出演団体について意見を出し合う。)

(アトラクションはコールドルチェコーラスグループ、実践報告は谷山区の語ろう会(盆綱引きの取組など)が候補として挙がる。)

加藤委員：

全体構成については、1月の会議で事務局から提案されたように、全体の時間を2時間にする必要がある。それ以外の部分はまだ決まっていないので、皆さんからご意見をいただきたい。私は、実践報告者が報告するだけでなく、参加者の方から質問をしてもらって質疑応答の時間を設けたいと思うのだが。

橋本委員：

笑顔のつどいのような大きな会場で行うスタイルの場合、質疑応答というかたちで実践報告の中身を深めるというのはなかなか難しいと思う。そこで、助言者あるいは司会者が、報告が終わったあとにあらためて報告者に質問を投げかけ、それに報告者が説明を加えるというようにすれば、さらに実践報告の内容が深められるのではないだろうか。

委員：

あるいは、実践報告の内容を踏まえて司会者が質問を会場の参加者に投げかけ、それに対する意見を出してもらおうというスタイルにすれば、全体として意義のあるやり取りができるのではないかと。

水上委員：

別の意見になるが、実践報告された活動に実際に参加している人たちの声を、何らかのかたちで紹介できないだろうか。その方が、実践報告を聴いた人たちが、自分たちもやってみよう！という気持ちになるのではないか。実際に活動に参加している人に会場に来てもらって発言してもらってもいいし、映像で流してもいいと思う。

加藤委員：

ではそのような参加者の声を紹介するという部分も含めて、実践報告者に依頼するということにしたい。しかしそのように考えれば、実践報告の時間が13分というのは短いと思う。1つ1つの報告の内容を深めた方がいいと思うので、報告団体は3団体ということで決めていたが、2団体として報告時間を15分ずつ確保するというところでどうだろうか。

（異議なし。）

では実践報告団体は2団体とする。

質疑応答については、参加者に質問を求めるスタイルではなく、司会者なり助言者が実践報告者に対して報告内容を踏まえ、うたえで質問をし、それに報告者が応えるというパネルディスカッションのようなスタイルを採る。

サブテーマについては、本日決定した出演団体や全体構成を踏まえ、3月の会議で決定したい。

本日の会議はここまで。皆さんお疲れさまでした。